

製品名: ERCC1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM82574**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	32.5kDa

抗原情報

遺伝子名	ERCC1
別名	UV20; COFS4; RAD10
遺伝子 ID	2067.0
SwissProt ID	P07992
免疫原	大腸菌で発現したヒト ERCC1 (AA: 1-297) の精製された組み換え断片。

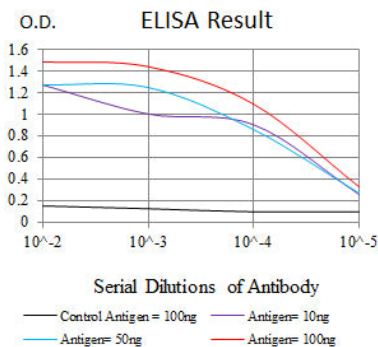
背景

この遺伝子産物はヌクレオチド除去修復経路において機能し、紫外線によって誘発される DNA 損傷やシスプラチンなどの求電子化合物によって形成される DNA 損傷の修復に必須である。コードされているタンパク質は XPF エンドヌクレアーゼ (ERCC4 と呼ばれ

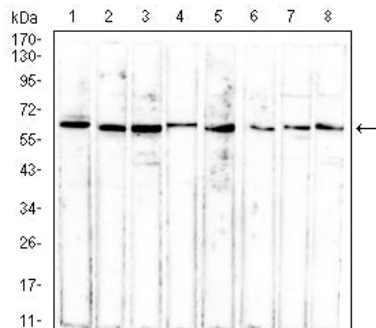
る) とヘテロ二量体を形成し、ヘテロ二量体エンドヌクレアーゼは DNA 損傷の切除過程において 5'切断を触媒する。ヘテロ二量体エンドヌクレアーゼは組換え DNA 修復および鎖間架橋の修復にも関与している。この遺伝子の変異は脳眼顔骨格症候群を引き起こし、この遺伝子の発現を変化させる多型は発癌に関与している可能性がある。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっている。この遺伝子の最後のエクソンは、反対鎖の CD3e 分子イプシロン関連タンパク質遺伝子と重複している。

研究分野

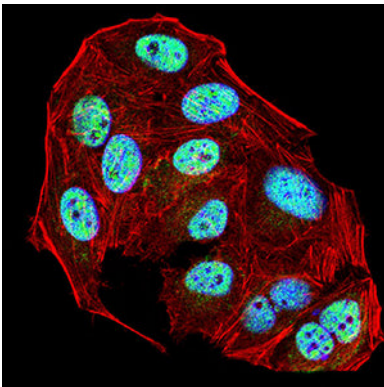
画像データ



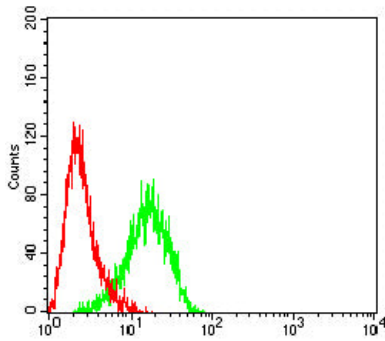
黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



ERCC1 マウス mAb を用いた NIH/3T3 (1)、MCF-7 (2)、Hela (3)、SK-Br-3 (4)、HepG2 (5)、Raji (6)、PC-3 (7)、および A549 (8)細胞ライセートに対するウエスタンブロット解析。(観測された分子量は約 62kDa であり、この抗体が ERCC1 タンパク質二量体を検出するという仮説がある。)



ERCC1 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



ERCC1 マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した A549 細胞のフローサイトメトリー分析。